

初学者ピアノ教育と小学校音楽科教育の読譜について: リズム唱に着目して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-02-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 牛頭, 真也, Gozu, Shinya メールアドレス: 所属:
URL	https://senzoku.repo.nii.ac.jp/records/1169

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



初学者ピアノ教育と小学校音楽科教育の読譜について

ーリズム唱に着目してー

Reading of beginner's piano education and elementary school music education :
Focus on rhythm singing

牛 頭 真 也
Shinya Gozu

1 はじめに

筆者は、プラベートでのピアノ指導（以下、レッスンとする）と小学校音楽専科非常勤講師として音楽教育に携わっている。レッスンでは、小学生の初学者に対してピアノ教則本・練習曲・曲集（以下、教則本等とする）を用いて指導を行い、小学校音楽科教育との共通点に着目して指導している。例えば、教則本等で使用される音符と休符は、4分音符、2分音符、4分休符が中心となり、学習が進むにつれて種類が増えていく。また、スラーやスタッカートの記事が出てくることで、音楽表現が多様になり楽曲の難易度も上がる。その他、4～16小節程度の曲、調号のないものか少ないものが導入・基礎レベルに多くみられる。これらの特徴は、小学校音楽教科書にも窺える。

小学校音楽科教育では、平成20年3月告示学習指導要領「指導計画の作成と内容の取扱い」の2(6)各学年の〔共通事項〕のイの「音符、休符、記号や音楽にかかわる用語」（図1）、平成29年告示学習指導要領「指導計画の作成と内容の取扱い」の2(9)各学年の〔共通事項〕の（1）のイに示す「音符、休符、記号や用語」（図2）は、ともに同じものが示されている。また平成29年告示学習指導要領では、「音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるよう取り扱うこと」と新たな文言（下線部）が加わる。ここで示されている音符、休符、記号や用語（以下、音符等とする）は、小学校音楽科教育やピアノ教育などの音楽教育における基礎的な学習内容であり、読譜教育の基礎ともいえる。

読譜教育について、尾見は次のように述べている。「日本の公教育における読譜教育の必要性は認識されておらず、読譜教育はほとんど達成されていない」（尾見 2009：76）。また、「日本の公教育における読譜教育の問題点は大きく二つある。音楽教育全体における『読譜』の位置付けの欠如、そして方法論の不在である。小学校学習指導要領は『読譜』に音楽教育全体における確かな位置付けを与えてはいない。読譜が音楽の表現と理解に不可欠であるという認識を、小学校学習指導要領の中に読み取ることができない。なぜ読譜が必要か。この問いに対する答えを確信できないと、方法論の必要性も生まれない」（尾見 2009：76）。

尾見は、ハンガリーの音楽教育とハンガリーの音楽教育を構築した1人であるコダーイ・ゾルターン

の研究者である。また、次のようにも述べている。

ハンガリーの音楽教育が日本に与える「大きな示唆」と私が考えるのは、〈リズム唱〉と〈リズム符〉、〈ドレミ階名唱〉と〈レターサイン〉や〈ハンドサイン〉ではなく、その先である。コダーイがこれらの教授法を、すぐれた方法であるとして〈その価値を見出し、有効に使って、読譜教育の体系を公教育に実現した〉という音楽教育の「改革の実現」にある。（尾見 2009：78）

尾見が「大きな示唆」と考えるように、読譜教育の体系を公教育に実現したハンガリーの音楽教育から学ぶべきことは多いと筆者も考える。だが、日本国内でハンガリーの音楽教育の実践を行うには、学習指導要領に明記された学習活動を踏まえなければならない。そこで筆者は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年に明記されているリズム唱を用いて、レッスンや小学校音楽科教育で読譜を行っている。リズム唱を行うことで楽譜を読む学習ができ、児童が主体的に音楽活動を行える基盤をつくることができるからだ。

リズム唱については、室町が次のように述べている。

リズム習得のためのリズム打ちは日本の音楽教育においても広く行われている指導法であるが、ハンガリーではリズム打ちに加えてこれらの呼称を用いたリズム唱を行い、音符と音価の関係が明確になるように指導している。日本でも四分音符を「タン」、四部休符を「ウン」などと読むリズム呼称を用いた指導法が教科書や指導書に取り上げられているが、その他の音符や休符の呼称については一般的に統一されておらず、多様な音符に対応しきれていない。シュベのリズム呼称のように、各音符やシンコペーションのように頻出する組み合わせのリズムに対応したリズム呼称が日本の音楽教育においても必要とされていることが考えられる。（室町 2015：32）

室町の指摘にあるように、指導書や教科書には幾つかの音符等の呼称は掲載されているものの、学習指導要領の共通事項に記載されている音符等を全て網羅しているわけではない。実はこのような状況は指導書や教科書だけでなく、教則本等においても同じことが指摘できる。このような背景から、音符等と音価の関係を明確にするために、筆者はコダーイ・メソッドの1つである「リズム唱」をレッスンや小学校音楽科教育の読譜に取り入れて実践している。

本研究では、小学生を対象とし、初学者ピアノ教育と小学校音楽科教育においてリズム唱を用いた読譜の重要性を明らかにする。筆者はすでにリズム唱を用いた実践を行っており、音楽教科書に掲載された「タン」や「ウン」を使用するとともに、曲種や曲想に応じてコダーイ・メソッドで使用されるハンガリーのリズム呼称（図3）を用いている。小学校音楽科教育では、特にリコーダーの曲において児童の音符等と音価の理解が早くなり、理解ができたことで児童の間で教え合いができるようになってきている。また、リズム唱の段階で音符等と音価が明確になるだけでなく、学習曲の速度や曲想を意識させることで、その後の活動が有意義になる。楽器の演奏法や音色の追求、楽曲分析など音楽的に深める時間を増やすことができれば、児童の音楽性を伸ばすこともできる。以上のことはレッスンでも同様で

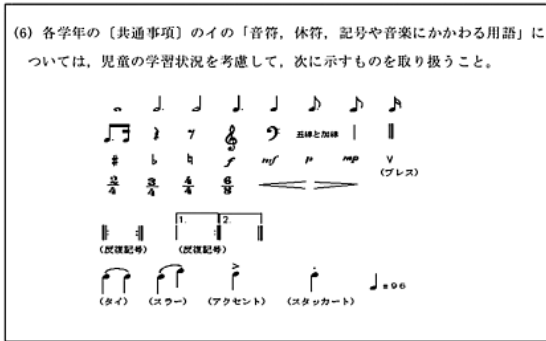


図1 平成20年告示小学校学習指導要領

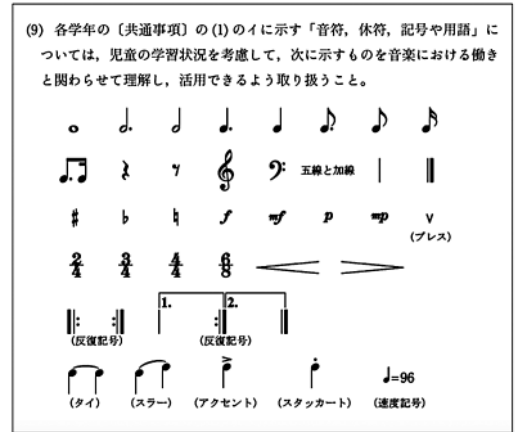


図2 平成29年告示小学校学習指導要領

あり、リズム唱は小学校学習指導要領に明記されている第1学年及び第2学年だけで終わるものではなく、音楽教育を行う上で重要な音楽活動だと筆者は考える。

研究の方法は、文献（楽譜）研究とレッスンと小学校音楽授業での実践的方法をとる。学習指導要領と小学校音楽教科書（教育芸術社と教育出版）のリズム唱、リズム呼称について整理する。参照するピアノ教則本等は、①2019年度ピティナ・ピアノステップ課題曲の教則本等（導入または基礎レベル）②筆者がレッスンで使用する教則本等③リズム呼称が記載されている教則本等を使用する。

研究の対象は、筆者がレッスンで指導する小学生の児童と勤務先の横浜市立S小学校の5、6年生児童とする。

2 ピアノ教則本等とリズム唱

図3に、日本コダーイ協会ウェブサイトで閲覧できる、コダーイ・メソッドにおけるハンガリーでのリズム唱を示す。この方式がコダーイ・メソッドで採用されたのは、フランスのエミール・ヨセフ・シュベ（Emile-Joseph Cheve, 1804-1864年）が名称化し、リズムを練習するための複雑なシステムを考案。ハンガリーでも採用され、音楽教育の最初の段階においてのみ使用している（フォライ・カタリン 1975：55-56）。

日本のリズム呼称との違いや、音楽教科書に掲載されていない音符等の呼称化もされていることがわかる。

リズムだけを表す簡易版をリズム唱と呼び、各音符の呼び名に依って唱える（歌う）ことをリズム唱と云う。

音符・休符	ハンガリーでのリズム唱
2分音符	ターアー
付点4分音符	ターイ
4分音符	ター
8分音符	ティ
8分音符 2つ	ティティ
シンコペーション	シンコーバ
16分音符	リ
16分音符 2つ	ティリ
4分休符	スン
8分休符	ス

図3 ハンガリーでのリズム唱

2-1 リズム呼称の記載がある教則本等

参照した教則本等は、①2019年度ピティナ・ピアノステップ課題曲の教則本等（導入または基礎レベル）、②筆者がレッスンで使用する教則本等、③リズム呼称が記載されている教則本等である。①に☆、②に□、③に◇印を付け、表1と表2に示す。

表1は、リズム呼称の記載がある教則本等を示したものである。表1からわかる通り、4分音符を

表1 リズム呼称の記載がある教則本等

教則本・練習曲・曲集（楽譜名）	リズムの呼称
☆バスティン ヤングビギナーピアノプリマー A	♪（タン）♪（タア アン）
☆バスティン ヤングビギナーピアノプリマー B	♪（タン）♪（タ タ）
☆おとなのためのピアノ悠々塾 入門編	♪（タン）♪（タタ）♪（ウン）♪（ターアー、ターアン） ♩（ターアーアーアー）♪（ターンタターアン） ♪（ター ャタ）♪（ターアーアー）♪（パッカ）
☆、□ピアノひけるよ！ジュニア1	♪（タン）♪（ターン）
□連弾・うたとピアノの絵本①みぎて ②ひだりて	この本の使い方の頁に、「タン、タタ」と記載されている。
□こどものひだりて（たのしいうたつき）1、2、3	[1] ♪（たん）♪（たーあん）♩（たーあーあーあん） [2] ♪（たん）♪（たーあん）♩（たーあーあーあん） ♪（うん） [3] ♪（たん）♪（たーあん）♪（たーあーあん） ♩（たーあーあーあん）♪（うん）
◇こどものバイエル 導入編	♪（たん）♪（うん）♪（たーあー）
◇ニューバイエル 第1集	♪（たん）♪（うん）♪（たーあー）♪（たーあーあー）
◇はじめてのピアノ・アドヴェンチャー レッスン・ブック A	♪（ター）♪（ターアー）♩（ターアーアーアー）
◇はじめてのピアノ・アドヴェンチャー レッスン・ブック B	♪（ウン）
◇ピアノ・アドヴェンチャー レッスン&セオリー 導入書	♪（ター）♪（ターアー）♩（ターアーアーアー）♪（ター アーアー）
◇ピアノ・アドヴェンチャー レッスン&セオリー 2A	♪（ター）♪（ティティ）
◇バスティン ピアノパーティー A	♪（たん）♪（たーあー）♩（たーあーあーあー） ♪（たた）♪（たーあーあー）
◇バスティン ピアノパーティー B	♪（たん）♪（たた）♪（たーあん）♪（たー あ）
◇バスティン ピアノライブラリー ピアノソロ レベル1	♪（タタ）♪（タン）♪（タン）♪（タア）♪（タア） ♪（タアア）♩（タアアア）♪（タアアア）
◇バスティン ピアノライブラリー ピアノレッスン プリマー	♪（タン）♪（ターアー）♩（ターアーアーアー） ♪（タタ）♪（ターアーアー）
◇バスティン ピアノライブラリー ピアノレッスン レベル1	♪（タタ）♪（タン）♪（タン）♪（タア）♪（タア） ♪（タアア）♩（タアアア）♪（タアアア）
◇ちいさなピアニスト 第1巻	♪（タン）♪（タタ）♪（ターアン）♪（ターアーアン） ♩（ターアーアーアン）♪（タン ト）♪（タ）

「タン（たん）」、8分音符を「タタ（たた）」とするものが圧倒的に多い。これは、外国の教則本等を日本国内版に編集した際に、国内で通常用いられているリズム呼称を当てはめたと推察できる。

また、バステインの教則本等は、リズム呼称が統一されていないことがわかった。これらも、日本国内版に編集した際に出来上がったものといえるだろう。2分音符と付点2分音符、全音符は、最後の拍を「アー」か「アン」にするかの違いがみられる。最後の拍を「アー」と伸ばすことで、その音符の音価分を意識できるが、「アン」とすると「ン」と発音した直後に音がなくなり演奏した際に音価が短くなる傾向にある。そのため「アンー」と伸ばすような工夫が必要となるのではないか。筆者は、指導経験を踏まえて「アー」と伸ばすものを採用している。

2-2 リズム呼称の記載がない教則本等

表2は、リズム呼称の記載がない教則本等を示したものである。

表2 リズム呼称の記載がない教則本等

☆バステイン ピアノベーシック プリマール 1～4	☆おとなのためのピアノ悠々塾 基礎編、初級編
☆バステイン ピアノパーティー C・D	☆Miyoshi ピアノ・メソッド改訂版
☆バステイン おとなのための教本 Book 1、2	☆、□ピアノひけるよ！ジュニア2
☆ツェルニー 初歩者のためのレクリエーション	☆バルトーク ミクロコスモス 1～6 巻
☆新版 みんなのオルガンピアノの本 (旧版は調べていない)	☆おとなのためのピアノ教本 Vol. 1～3
☆ピアノランド 1～4	☆カバレフスキー 24 の小品集 Op. 39
☆メトードローズ ピアノ教則本 ピアノの一年生	☆うたえる！ひける！ピアノ曲集 1～2
☆、□トンブソン 小さな手のためのピアノ教本、 現代ピアノ教本 1～2	☆きらきらピアノ こどものピアノ連弾名曲集 1～2 (連弾)
☆バイエル (初版) ⁱ (安田寛 2016: 第2部)	☆れんだんあれこれ、れんだんいろいろ (連弾)
☆、□バーナム ピアノ・テクニック導入書、1～4	☆プリモちゃんとセコンドくんのステップアップ連弾 1 (連弾)
☆みんなのグローバー・ピアノ レッスン導入書 Vol. 1～4	☆シュンゲラー新しい子どものうたの本 1 (連弾)
☆はじめてのギロック	□ぴあの どりーむ 幼児版、1、2
☆ラーニングトゥプレイ ブック 1～4	□はじめてのテクニック ピアノのほん 1 導入

表2からわかる通り、バステインの教則本等にはリズム呼称のないものがあることがわかった。また、リズム呼称としてふさわしくないため表には記載しなかったが、音符の長さを示すのに音符の名前を当てはめたものがあった。例えば、2分音符は「にーぶん おんぷ」、付点2分音符は「ふてん にぶ おんぷ」のように、音符の拍数に合わせて音符名を分割した記載である。言葉の下に「1 2 3」と拍数が示されているが、「ふてん」は3文字、「にぶ」は2文字、「おんぷ」は3文字と、文字数の統一がないために、拍を確実に感じていないと混乱する可能性がある。

ピティナ・ピアノステップ課題に指定されている教則本等（導入・基礎レベル）は、リズム呼称のな

いものが多いことがわかった。多くの教則本等はリズム呼称を用いずに、4分音符を「1拍」・「1と」・「1」、2分音符を「2拍」・「1と2と」・「2」と数えるように記載している。特に「1と」・「1」と数える方法は、音符等の長さを把握できるだけでなく、拍子を感じられる方法である。しかし、初学者に音符等の長さを明確に教えるには、リズム唱が先にあるべきだろう。筆者は、リズム唱の定着がみられる児童に、拍子を感じられるこれらの方法を採用している。

その他、音符等の長さについての記載が全くない教則本等も若干あった。

3 小学校学習指導要領と小学校音楽教科書

3-1 小学校学習指導要領にみられるリズム唱の記述

平成 20 年告示と平成 29 年告示の小学校学習指導要領において、リズム唱についてどのように記述されているか表 3 に示す。

表 3 小学校学習指導要領にみられるリズム唱（下線部は筆者によるもの）

平成 20 年告示学習指導要領解説音楽編	平成 29 年告示学習指導要領解説音楽編
第 3 章 各学年の目標及び内容 第 1 節 第 1 学年及び第 2 学年の目標と内容 2 内容 A 表現 (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。 ア 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したりすること。 (抜粋) 階名による模唱や暗唱、<u>リズム唱</u>やリズム打ちに親しみながら、音程感やフレーズ感、リズム感を十分に育てるようにすることが求められる。 (2) 器楽の活動を通して、次の事項を指導する。 ア 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏すること。 (抜粋) 視奏の基礎となる能力を養うために、<u>リズム唱</u>、体や楽器によるリズム打ちなどを通して、リズムに対する感覚を十分に身に付けるようにすることが望まれる。(抜粋) 視奏では、階名唱やリズム唱、体や楽器によるリズム打ちに十分慣れるようにした上で、簡単なリズム譜を見て演奏するようにするなど、音程感やフレーズ感、リズム感を十分に育てることが求められる。	第 3 章 各学年の目標及び内容 第 1 節 第 1 学年及び第 2 学年の目標と内容 2 内容 A 表現 (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ウ 思いに合った表現をするために必要な次の (7) から (9) までの技能を身に付けること。 (7) 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする技能 (抜粋) 階名による模唱や暗唱、<u>リズム唱</u>やリズム打ちに親しみながら、音程感、フレーズ感、リズム感、などを十分に育てるようにすることが求められる。 (2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ウ 思いに合った表現をするために必要な次の (7) から (9) までの技能を身に付けること。 (7) 範唱を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する技能 (抜粋) 視奏の基礎となる力を養うために、リズム譜を見ながら、<u>リズム唱</u>をしたり体や楽器によるリズム打ちをしたりするなどして、リズムに対する感覚を十分に身に付けるようにすることが重要である。

表 3 からわかる通り、学習指導要領では平成 20 年告示、平成 29 年告示ともに第 1 学年及び第 2 学年の A 表現の歌唱と器楽の活動内容に、リズム唱の記載がある。第 3 学年及び第 4 学年以上には、リズム唱の記載は無くなるが、平成 29 年告示学習指導要領の第 5 学年及び第 6 学年 A 表現 (1) のウ (7) では、「楽譜と音との関係を意識した指導の一層の充実を図り、音楽を形づくっている要素及び音符、休符、記号や用語の指導も併せて行い、音楽の流れを感じながら読譜できるようにすることが求められる

る」とあり、この活動にリズム唱が含まれると筆者は考える。

また、平成 29 年告示学習指導要領の第 3 学年及び第 4 学年 A 表現 (2) のイ曲想と音楽の構造との関わりの説明文に「ゆっくりした感じから弾んだ感じに変わったのは、途中から♪ (タッカ) のリズムが多くなったから」とリズム呼称が突然使われているが、共通事項に示されたこの他の音符等のリズム呼称の例示はない。

3-2 小学校音楽教科書にみられるリズム呼称の記載 (教育芸術社と教育出版)

表 4 は、小学校音楽教科書に記載されているリズム呼称について示したものである。日本の伝統音楽の口唱歌や、リコーダーのタンギングなど楽器の奏法に関わる呼称については、本研究に含まないため示していない。

表 4 小学校音楽教科書にみられるリズム呼称の記載

学年	小学生の音楽 (教育芸術社)	小学音楽 おんがくのおくりもの (教育出版)
1	  	  
2	【あたらしく おほえること】 ♪ (タン) ♪ (ウン) ♪ (タ) ♪ ♪ = ♪ (タタ) ♪ (ウ) ♪ (ターアー)	【音の 長さ くらべ】 ● びよ————ん ♪ びよ——んびよ——ん ♪ (ウン) ♪ びょん ♪ びょこ
3～6	記載無し	記載無し

表 4 からわかる通り、2 社ともに第 1 学年は音符ではなく図を用いてリズム唱を行う。第 2 学年では、音符と休符を示しているが、一般的な呼称を用いているのは教育芸術社である。第 3 学年以降は、音符等を示したリズム呼称がない。そのため、2 社ともに学習指導要領の共通事項で示された音符等を全て網羅していないため、どのようにリズム唱をするかは、教える側に任されている。

4 小学校音楽授業とピアノレッスンでの実践

4-1 小学校での実践

筆者が勤務する横浜市立 S 小学校の 5、6 年生を対象に、図 3 に示したリズム呼称を中心に用いた授業実践をしている。児童は、筆者が音楽を担当して 3 年目となることもあり、リズム唱の活動は積み重ねがある。筆者が着任する前は、音楽教科書に記載されている「タン」や「タタ」などのリズム唱のみを行っていたと思うが、図 3 に示したハンガリーのリズム呼称を用いた時、特に問題なく学習を進めることができたと記憶している。リコーダーの曲を中心にリズム唱を用いたことで、複雑なリズムが多くなくスムーズに取り組めたためだろう。また、低学年で学習してきた「タン」や「タタ」は否定せず、

曲種や曲想の違いで「タン」や「タタ」も用いる。例えば、タンブリンやカスタネットなど基本的に弾みをつけて演奏する楽器の場合には、それらが有効的である。逆に、レガートで演奏するような曲は、図3の呼称を用いる。音楽教科書に掲載されているリコーダー曲の多くはレガートでの演奏が多いため、図3のリズム呼称を使う頻度が高くなる。歌唱では、複雑なリズムが使用されることがあるため聴唱を通して学習するが、リコーダー曲で使われるリズムと同じものはリズム唱を用いて関連させている。

表5 学習曲とリズム呼称

学年	学習曲について	使用される音符等とリズム呼称
5	《小さな約束》 佐井孝彰作曲 ソプラノリコーダー二重奏（教育芸術社）	♪（ターアー） ♩（ター） ♩（ターアーアー） ♪（スン） ♩（ティティ）
6	《マルセリーノの歌》 ソロサバル作曲 相田裕美作詞 乾康平編曲 ソプラノリコーダー二重奏として学習（教育出版）	♪（ター） ♩（ティティ） ♩（ターアー）
6	《そよ風のデュエット》 佐井孝彰作曲 ソプラノリコーダー二重奏（教育芸術社）	♪（ター）→スタッカートがある場合は（タッ） ♪（ウン） ♩（ター） ♩（ティティ） ♩（ティティ） ♪（ターアー） ♩（ターアーアー） ♩（ウンウン） ※2分休符は、中学校の学習へ繋げるために指導した。 ※4分休符は、馴染みのある「ウン」にした。

表5は、2019年5～7月に学習した曲と使用されている音符等とリズム呼称を示している。授業は学習曲の音源を聴かず、各自、楽譜から使われている音符等を見つけ、筆者が作成したプリント（図4）で音符等の長短を確認する活動から始めた。次に、拍を打ちながらリズム唱を繰り返し行い、ドレミ唱、リコーダーの演奏と学習を進めた。リズム唱を行う際には拍を打ちながら、リズムがわかりにくいところは筆者が拡大楽譜に指差しするなどして、児童のリズム唱がある程度そろうまで繰り返した。この際、筆者がリズム唱をすると、児童が聴唱で覚えてしまうことが考えられるので、拡大楽譜を指差しする程度にした。その後、ドレミ唱を行う。ドレミ唱の際は、児童のみドレミ唱をし、筆者は拍打ちのみか、拍を打ちながら拡大楽譜に指差し、もしくは小さな声でリズム唱をするなど筆者の真似をしないようにした。リズム唱とドレミ唱が重なることで、これらの活動が結びついていることを意識させた。この段階でもリズム唱がうまくできない児童が若干名いたため、筆者と一緒にリズム唱を繰り返し行なった。これまでの積み重ねが合ったため学習曲の音源を聴かなくても、早い段階でほぼ全員が音符等の長さに気をつけてリコーダーの演奏ができるようになった。

図4は、6年生の児童に学習のはじめに配布したプリントである。プリントは複雑さを感じるかもしれないが、これまでの積み重ねがあることから、2分休符、まとまりで覚える、スタッカートの呼称を新たに覚えるだけで済んでいる。学習のはじめに音符等の呼称や拍数を確認することでリズム唱、ドレミ唱がスムーズに進み、リコーダーの練習に多くの時間を確保することができた。

また、表5に示した曲は全て二部に分かれるのだが、45分間の授業のまとめの段階ではリコーダー

《そよ風のデュエット》で使われる^{おんがく びょうし}音符と休符

音符・休符	1ばく	2はく	3ばく	4はく
	→ タ			
	→ タ			
	→ ター			
	→ タ			
	→ ター			

音符・休符	1ばく	2はく	3ばく	4はく
	→ ター	→ ター	→ ター	
	→ ウン			
	→ ウン	→ ウン		

○まとまりで覚える

1ばく	2はく	3ばく	4はく
			

○スタッカート（その音を短く切って演奏する）

	または 	→	タッ
---	---	---	----

図4 筆者が作成したプリント

二重奏まで行えた。学習曲の音源を聴かなくても、リコーダー二重奏の演奏までできたことに達成感を感じた児童が多くいた。

表6は、学習終了時にアンケート調査した結果である。多くの児童が「わかりやすかった」と答えている。リズム唱についての肯定的な感想が多くあり、各学年3名の感想を掲載する。

表6 5、6年生へのアンケート

(5年生：95名) リズム唱をすることで、音符の長い短いがわかりやすかったですか？		
わかりやすかった 71	まあまあ 22	わかりにくかった 2
【わかりやすかったと回答した児童の感想】 ・リズム唱を習い事に生かせていないので、次からはリズム唱とつながりをもたせたいと思います。音の長い短いも、自分から注意しようと思います。この学習でいろいろなことを学べた。 ・音符の長い短いがよくわからなかったけど、リズム唱をしたら長い短いが分かりました。 ・いつの間にかできるようになりました。リズム唱やドレミ唱は音符が何かを見て「ターターター」や「ティティ」と声に出しました。		
(6年生：90名) リズム唱をすることで、音符の長い短いがわかりやすかったですか？		
わかりやすかった 72	まあまあ 17	わかりにくかった 1
【わかりやすかったと回答した児童の感想】 ・リズムを先に知ることで、曲をきかなくても弾けるんだと思いました。 ・リズムをとらえることができた。音の長さや短い時を見分けることができた。 ・音符を見て学習してふくことができました。思った以上に自分ができることがわかりました。		

4-2 ピアノレッスンでの実践

筆者がピアノ指導している小学生15名（5小学校、11名の教員）に、在籍している小学校の音楽授業でリズム唱を行っているか調査した。この内の4名が音楽授業でリズム唱を行なっていることがわかった。その結果を、表7に示す。

表7 筆者がピアノ指導する児童の在籍小学校での様子

児童	学校	学年	担当	使用している教科書と指導されているリズム呼称
A 児	ア	1	学級担任	教育芸術社の教科書使用 リズム呼称は「たん」や「うん」
B 児	イ	1	学級担任	教育芸術社の教科書使用 リズム呼称は「たん」や「うん」
C 児	ウ	3	音楽専科	教育出版の教科書を使用 リズム呼称は「たん」や「うん」
D 児	ウ	3	音楽専科	

表7の通り、A・B児は教科書に掲載されている図を見てリズム唱を行なっていることがわかった。C・D児は同じ小学校に在籍しているため、同じ教員が指導をしている。継続的にリズム唱を用いた指導がされていないことから、レッスンに通い始めた頃はC・D児ともにリズム唱がたどたどしかった。また、リズム唱を音楽の授業で行なっていないと答えた11名の児童に、音符等の長短をどのように学習しているか聞いたところ、「4分音符は1拍、2分音符は2拍」というような説明がある、教師の歌うドレミ唱や演奏を模倣して覚える、または聞くという答えが多かった。音符等の名称や拍数の説明、聴唱によって曲の流れを覚える活動では、児童の読譜力を養うことはできないだろう。

筆者のレッスンに通う児童の多くは初学者であり、基礎レベルの教則本等を使用している。そのため、小学校学習指導要領の共通事項に示されている音符等のみで構成されている曲を基本的に練習している。レッスンの進め方は、学習曲に使用される音符等の種類を見つけ、それらのリズム呼称の確認をしてから、リズム唱を行なっている。リズム唱ができてから、ドレミ唱を行う。月に2～4回程度のレッスンのため、リズム唱が上手にできるまでには個人差はあるが、音符等の長さを少しずつ理解できるようになってきている。

5 まとめ

リズム唱に着目し、教則本等、学習指導要領、音楽教科書にはどのような記載があるのか、そしてレッスンと小学校音楽授業での筆者の実践について述べてきた。リズム唱を通して音符等の音価が明確にわかるだけでなく、児童が自分の力で楽譜を読み、演奏できるようになるためにも重要な活動であることがわかった。しかし、小学校学習指導要領の共通事項に記載される全ての音符等を呼称化した音楽教科書や指導書、教則本等がないことから、指導者が方法を考えなければならない。そこで、世界の音楽教育に影響を与えたコダーイ・ゾルターンメソッドに用いられているリズム呼称を用いることが、児童の読譜において重要であることを改めて認識することができた。特にレガートで演奏する曲には、図3で示したリズム呼称が効果的であることもわかった。

今後は、来年度から新学習指導要領が実施されることに伴い音楽教科書も改訂されることから、音楽教科書と指導書を再度分析し、児童が自らの力で楽譜を読み演奏できるための指導法や、初学者ピアノ教育における読譜についての効果的な指導法についての研究を進めていく。

注

- i 安田寛 (2016) 『「バイエル」原典探訪 知られざる自筆譜・初版譜の諸相』小野亮祐、多田純一、長尾智絵共著 東京：音楽之友社 第2部に『バイエル ピアノ教則本』初版が掲載されている。日本国内において多数の校訂者によるバイエル教則本が出版されているが、バイエルがリズム呼称を記載しているか調べるためにこの本を採用した。リズム呼称の記載はなかった。

引用・参考文献

- 尾見敦子 (2009) 「特集☆〈読譜〉にどう向き合うか—義務教育課程9年間を見通す中で〈特集投稿〉提言『読譜教育』の4つの視点—ハンガリーの音楽教育に学ぶもの」日本音楽教育学会 7(1) 76-86
- 室町さやか (2015) 「小学校音楽科におけるわらべうた教材を用いた読譜教育—《ひらいたひらいた》を例に」『環太平洋大学研究紀要』第9巻 27-33
- 文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領 (平成20年告示) 解説 音楽編』東京：教育芸術社
- 文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 音楽編』東京：東洋館出版社
- 小原光一他著 (2015) 『小学生の音楽 1～6 (平成27年)』東京：教育芸術社
- 新実徳英他著 (2015) 『小学音楽 音楽のおくりもの1～6 (平成27年)』東京：教育出版
- 山本美芽 (2017) 『ピアノ教本ガイドブック～生徒を生かすレッスンのために～』東京：音楽之友社
- 丸山京子 (2017) 『レッスンの効果を倍増させる！ピアノ教本 選び方と使い方』東京：音楽之友社
- フォライ・カタリン、セーニ・エルジェーベト (1975) 『コダーイ・システムとは何か』羽仁協子、谷本一之、中川弘一郎共訳 東京：全音楽譜出版社

ウェブサイト

- 日本コダーイ協会 <http://kodaly.jp/concept/rhythm/> (2019/8/23 にアクセス)
- ピティナ <https://www.piano.or.jp> (2019/8/23 にアクセス)

参考楽譜

- 市川都市雄 (1993) 『こどものバイエル 導入編』東京：教育芸術社
- 市川都市雄 (1994) 『ニューバイエル 第1集』東京：教育芸術社
- 江崎光世、佐々木邦雄 (2004) 『プリモちゃんとセコンドくんのステップアップ ピアノ連弾1 CD付』東京：ヤマハミュージックメディア
- 遠藤蓉子『らくらくへおんきごう こどものひだりて (たのしいうたつき)』①～③ 東京：サーベル社
- 音楽之友社 (2015) 『日本の作曲家によるアルバム れんだん・あれこれ』
- 音楽之友社 (2015) 『日本の作曲家によるアルバム れんだん・いろいろ』
- 樹原涼子 (1991) 『ピアノランド』①～④ 東京：音楽之友社
- 呉暁 (1989) 『みんなであのしく うたったり ひいたり うたとピアノの絵本』①みぎて、②ひだりて 東京：音楽之友社
- 須田直治 (2000) 『大人のためのピアノ悠々塾 入門編』東京：ヤマハミュージックメディア
- 須田直治 (2006) 『大人のためのピアノ悠々塾 基礎編 [改訂版]』東京：ヤマハミュージックメディア
- 須田直治 (2018) 『大人のためのピアノ悠々塾 初級編 [改訂版]』東京：ヤマハミュージックメディア
- 高橋正夫 (2015) 『新版 みんなのオルガン・ピアノの本』1～4 東京：ヤマハミュージックメディア
- 田丸信明 (2001) 『はじめてピアノをならう幼児のために 初級ピアノテキスト ぴあの どりーむ [幼児版]』、(1993) 『はじめてピアノをならうこのために 初級ピアノテキスト ぴあの どりーむ』1～2 東京：学研パブリッシング
- 轟千尋 (2013) 『はじめてのテクニック ピアノのほん1』東京：学研プラス

- 轟千尋（2014）『きらきらピアノ こどものピアノ連弾名曲集』1～2 東京：全音楽譜出版社
- 橋下晃一（1992）『おとなのためのピアノ教本』（1）～（3） 東京：ドレミ楽譜出版社
- 橋本晃一（1998）『しってる きょくで どんどん ひける ピアノひけるよ！ジュニア（1）』東京：ドレミ楽譜出版社
- 橋本晃一（2012）『子どもの歌で楽しいレッスン うたえる！ひける！ピアノ曲集〈せんせいといっしょ〉』（1）～（2） 東京：ドレミ楽譜出版社
- 橋本晃一（2017）『しってる きょくで どんどん ひける ピアノひけるよ！ジュニア（2）』東京：ドレミ楽譜出版社
- 三善晃（2008）『Miyoshi ピアノ・メソード』volume.1～12 東京：カワイ出版社
- 安田寛（2016）『「バイエル」原典探訪 知られざる自筆譜・初版譜の諸相』小野亮祐、多田純一、長尾智絵共著 東京：音楽之友社
- エルネスト・ヴァン・ウェルド（1968）『メトードローズ・ピアノ教則本 ピアノの一年生』安川加寿子訳 東京：音楽之友社
- カバレフスキー（2000）『24の小品集 Op.39』橋都みどり編 東京：全音楽譜出版社
- ギロック（1997）『ビギナーのためのピアノ小品集 はじめてのギロック』安田裕子訳・解説 東京：全音楽譜出版社
- ジェームズ・バスティン（1992）『バスティン ピアノ ベーシックス ヤングビギナーピアノプリマー』A～B（日本語版） 東京：東音企画
- ジェームズ・バスティン『バスティン ピアノライブラリー ピアノレッスン』プリマー、レベル1 日本バスティン研究会訳 東京：東音企画
- ジェーン・S・バスティーン（1977）『ちいさなピアニスト 第1巻』東京：東音企画
- ジェーン・スマイサー・バスティーン『バスティン ピアノライブラリー ピアノソロ レベル1』日本バスティン研究会訳 東京：東音企画
- ジェーン・S・バスティン、リサ・バスティン、ローリー・バスティン（1994）『ピアノ パーティー』A～D 溝部洋子訳、東京：東音企画
- バスティン（1989）『バスティン ピアノ ベーシックス ピアノ（ピアノのおけいこ）』プリマーPレベル、レベル1～4（日本語版） 東京：東音企画
- バスティン（2001）『おとなのピアノ教本』Book1～2 内野すみ江・木村理恵子・高嶋麻企・松尾英美共訳 東京：東音企画
- ジョン・トンブソン（1972）『小さな手のためのピアノ教本』大島正泰訳 東京：全音楽譜出版社
- ジョン・トンブソン（1972）『現代ピアノ教本』1～2 大島正泰訳 東京：全音楽譜出版社
- ツェルニー（1967）『初歩者のためのレクリエーション』伊達純校訂 東京：全音楽譜出版社
- デイビッド・カー・グローバー、ジェイ・スチュアート（1979）『みんなのグローバー・ピアノ レッスン』《導入編》、〈Vol.1～4〉 東京：ヤマハミュージックメディア
- ナンシー・フェイパー、ランディー・フェイパー（2018）『はじめてのピアノ・アドベンチャー レッスン・ブック CD付き』A～B 東京：全音楽譜出版社
- ナンシー・フェイパー、ランディー・フェイパー（2019）『ピアノ・アドベンチャー レッスン&セオリー CD付き』導入書、2A 東京：全音楽譜出版社
- バーナム、エドナ・メイ（1999）『バーナム ピアノ テクニック』導入書、1～4 中村菊子解説・訳 東京：全音楽譜出版社
- ハインツ・シュンゲラー（1979）『新しい子どものうたの本・1』東京：ショット・ミュージック
- バルトーク（2008）『ニュー・スタンダード・ピアノ曲集 バルトーク ミクロコスモス』1 & 2、3～6 末吉保雄・バップ晶子編 東京：音楽之友社

メルヴィン・スッテカー、ノーマン・ホロヴィッツ、クレア・ゴードン（1980）『小さいピアニストのために
ラーニング トゥ プレイ ブック』1～4 中村菊子解説・訳 東京：全音楽譜出版社